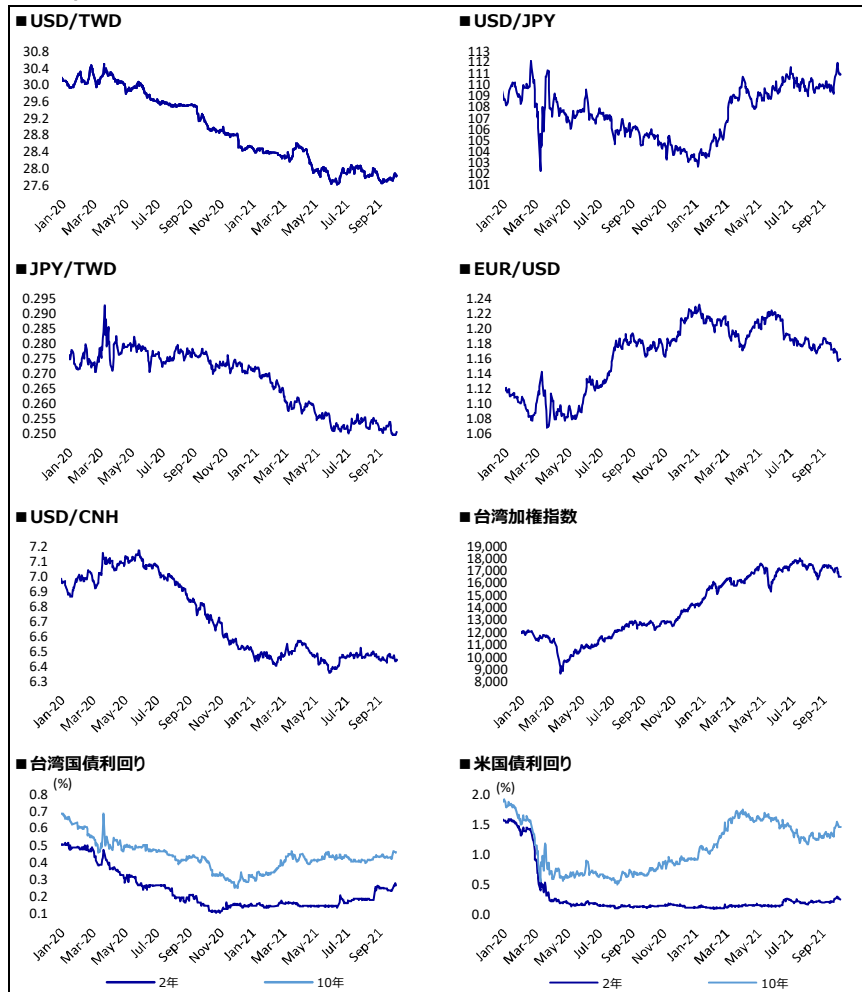


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初9/27は27.710でオープン後、月末の輸出企業のドル売りから27.670まで下落。しかし米長期金利の上昇を受け、海外への投資資金が増加するとドルが買い戻された。9/28も輸出企業のドル売りが入るも米金利の上昇を背景に海外への資金流出から27.79付近まで上昇。9/29は米株式市場の下落や中国での電力制限による工場停止への警戒感から台湾加権指数が17,000ポイントを下回り推移する中、27.83付近まで上昇。9/30は月末ながらも、引き続き米金利の上昇から海外への資金流出により、ドル/台湾ドルは27.87付近まで上昇。10/1も台湾株の下落から台湾ドル売りが入り、一時27.890に。最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の27.882で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は396.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/27は110.65でオープン後、米長期金利の上昇につられてドル買いが優勢となり、111円台に乗せたものの、米長期金利がいったん下げると111円ちょうど付近で推移。9/28は米長期金利の上昇につられたドル買いが継続し、じり高の展開に。米10年債の利回りが1.56%まで上昇する中、ドル円も一時111円半ばまで買われたが、米9月消費者信頼感指数が予想を下回ると米金利の上昇も一服。その後はポジション調整の動きもあり111円台前半で推移した。9/29は米金利は大きな変動はなかったものの、四半期末の月末の実需のフローを受け、112円台に入った。9/30も前日の流れを受け、約1年7か月ぶりの112.08まで上昇するが、月末の米国債の買いによる米金利の低下や月末の調整からドル売りが優勢となり、111円台前半まで下落。10/1も米金利の低下の流れからじり安の展開となり、一時111円を割ったものの、最終的に先週比0.3%ドル高円安の111.08で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.760-28.000
先週は月末ながらも米金利の上昇から海外への資金流出が続き、台湾ドル安の流れとなった。先週末に米金利上昇はやや落ち着いたものの、今週は米雇用統計等、重要な米経済指標の発表を控えており、引き続き米金利の動向をにらみながらの展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：110.00-112.50
今週は米雇用統計の発表を控えているが、金融緩和縮小への期待から再度米長期金利の上昇により、上値を探る展開に警戒したい。

今週の予定

10/4 (MON)	中国休場(国慶節、7日まで)、米8月耐久財受注
10/5 (TUE)	米9月ISM非製造業景気指数
10/6 (WED)	台湾9月CPI、米9月ADP雇用統計
10/7 (THU)	
10/8 (FRI)	台湾9月貿易収支、米9月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。